

県立高等学校教育改革第二次実施計画の推進について

特色ある専門学科の設置

連携型中高一貫教育校への改編

阪神地域の新しい多部制単位制高等学校及び高等特別支援学校の実施計画

平成24年度入学者選抜における複数志願選抜に係る第1志望加算点

特色ある専門学科の設置

「県立高等学校教育改革第二次実施計画」に基づき、専門性の高い学びを実践しているコースを改編し、専門学科を設置する。

対 象 校	県立明石北高等学校
設 置 学 科	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: left;"> <p>[現 行] 普通科 自然科学系コース 1学級</p> </div> <div style="font-size: 2em;">⇒</div> <div style="text-align: right;"> <p>[改編後] 自然科学科 (仮称) 1学級</p> </div> </div>
設 置 年 度	平成24年度 (平成24年4月)
改 編 内 容	<p>【学科の目標】 高度な科学リテラシー、数学リテラシーを身に付け、国際舞台で活躍できる次代を担う科学者を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度な科学・数学リテラシーとともに、社会の中で主体的に行動できる人材を育成する。 ・ 地域を大切にし、学びの成果を発信して地域社会に貢献できる人材を育成する。 ・ 地域から国際舞台へはばたけるよう、国際性豊かな人材を育成する。 <p>【特色ある教育活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学技術関係施設における研修の実施及び大学との連携事業の実施 ・ 大学や研究機関との連携により、数学の有用性、英語論文の読解や記述手法、プレゼンテーション能力の向上をめざす探究型学習の実施 ・ 地元小学生対象の「めいほく親子サイエンス教室」の開催などにより生徒の学習意欲の向上と理数教育の普及への取組 ・ 数学理科甲子園や数学オリンピックなど科学オリンピックへの参加の推進 <p>【特色ある専門科目 (予定)】 「自然科学探究」、「科学英語情報」、「科学・技術・社会」、「理数数学特論」、「理数数学」、「理数数学」、「理数化学」、「理数物理」、「理数生物」</p> <p>【募集方法等】 推薦入学 (募集定員の全部) 通学区域は、県下全域</p> <p>【備考】 平成22年度～平成26年度 文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール」の研究指定</p>

連携型中高一貫教育校への改編

「県立高等学校教育改革第二次実施計画」に基づき、中学校と高等学校の系統的な学習を展開し、将来の地域づくりの担い手を育成するという観点から、学校改編により連携型中高一貫教育校を設置する。

対 象 校	県立氷上西高等学校																	
連 携 中 学 校	丹波市立氷上中学校、青垣中学校																	
改 編 年 度	平成24年度（平成24年4月）																	
改 編 内 容	<p>【特色ある教育活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中高連携授業の相互支援・補助 ～ 中学校における中高教員によるチームティーチング授業や中高教員の資質向上をめざした研究協議の実施 ・ 中高連携の教育活動の実施 ～ 総合的な学習の時間、学校行事、部活動等 ・ 地域の人材や施設を活用したまちづくりの担い手育成 ～ 大学と連携したフィールドワークの実施、幼保小学校との連携、情報類型の設置 <p>【入学者選抜方法】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">実施時期</th> <th style="text-align: center;">募集定員</th> <th style="text-align: center;">出願資格の区分等</th> <th style="text-align: center;">選抜の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">連携型 入学者選抜</td> <td style="text-align: center;">2月中旬</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">1学級 (1)</td> <td style="text-align: center;">氷上中学校卒業見込み者 青垣中学校卒業見込み者</td> <td style="text-align: center;">面接 基礎学力をみる 検査(2)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">学力検査</td> <td style="text-align: center;">3月中旬</td> <td style="text-align: center;">県下全域</td> <td style="text-align: center;">学力検査 面接</td> </tr> </tbody> </table> <p>1 連携型入学者選抜の募集定員は、定員に対する一定の割合（50%～75%）以内とし、残りの定員は学力検査で募集する。</p> <p>2 基礎学力を見る検査の科目等、連携型入学者選抜の具体的な選抜方法については、平成24年度兵庫県公立高等学校入学者選抜要綱及び募集要項で定める。</p>				区分	実施時期	募集定員	出願資格の区分等	選抜の内容	連携型 入学者選抜	2月中旬	1学級 (1)	氷上中学校卒業見込み者 青垣中学校卒業見込み者	面接 基礎学力をみる 検査(2)	学力検査	3月中旬	県下全域	学力検査 面接
区分	実施時期	募集定員	出願資格の区分等	選抜の内容														
連携型 入学者選抜	2月中旬	1学級 (1)	氷上中学校卒業見込み者 青垣中学校卒業見込み者	面接 基礎学力をみる 検査(2)														
学力検査	3月中旬		県下全域	学力検査 面接														

阪神地域の新しい多部制単位制高等学校及び高等特別支援学校の実施計画

〔趣 旨〕

平成 24 年 4 月に開校する阪神地域の新しい多部制単位制高等学校及び高等特別支援学校について、基本計画等に基づき、実施計画を以下のように公表する。

〔これまでの経緯〕

- 平成 20 年 10 月 15 日 「阪神地域への多部制単位制高等学校及び高等特別支援学校の設置について」公表
- 平成 21 年 10 月 9 日 「阪神地域への新たな多部制単位制高等学校の規模及び再編対象となる定時制高等学校について」公表
- 平成 22 年 3 月 24 日 「阪神地域の新しい多部制単位制高等学校及び高等特別支援学校の基本計画」公表

〔実施計画〕

1 設置趣旨

「県立高等学校教育改革第二次実施計画」に基づき、生徒の興味・関心や多様な学習ニーズに応じて主体的に学ぶことができる多部制単位制高等学校を新たに阪神地域に設置し、また、「兵庫県特別支援教育推進計画」に基づき、障害のある生徒の社会的・職業的自立を支援するための職業教育に重点をおく高等特別支援学校を多部制単位制高等学校と同一敷地内に新たに設置する。

両校の生徒が同じ教室や施設等において共に学ぶ学習に取り組むなど、共に助け合って生きていくことを実践的に学ぶ機会を設定することにより、触れあいを通じた豊かな人間性を育むとともに、社会におけるノーマライゼーションの理念を進展するための礎となる学校をめざす。

2 両校の概要

	多部制単位制高等学校	高等特別支援学校
開校時期	平成24年 4 月	
設置場所	伊丹市池尻（旧県立武庫荘高等学校跡地）	
学 科	普通科	職業科
修業年限	3 年以上	3 年
学 期	前期・後期の 2 学期制	
課 程	定時制課程（3 部制）、単位制 〔 1 部（午前）、2 部（午後）、3 部（夜間）の 3 つの部を設置 〕	
募集定員	1 学年 6 学級程度 （各部の募集定員は平成23年度に公表）	1 学年 6 学級（48人）
その他	3 部における川西教室及び宝塚教室の設置 〔平成24～26年度の 3 年間、県立川西高等学校に川西教室を、同宝塚良元校内に宝塚教室を設置 近隣の定時制高等学校の募集停止 〔 県立川西高等学校、同宝塚良元校及び伊丹市立高等学校を、平成24年度から募集停止 〕	

3 多部制単位制高等学校の教育課程等の特色

(1) 履修形態

- ・ 1部、2部、3部の各部において1日4時間の授業を実施する。
(1部：1～4時限、2部：5～8時限、3部：9～12時限)
- ・ 原則として、所属する部における教科・科目を週20時間履修する。ただし、所属する部以外の部の科目履修も可能とする。(原則10単位以下)
- ・ 遠距離通学者への配慮として、平成25年度から、3部に1日3時間の履修(9～11時限)に加え学校外の単位(定通併修等)を設定することにより、4年間で卒業可能な新たな履修形態を設置することを検討する。

(2) 教育課程

ア 科目設置の基本的な考え方

- ・ 設置する科目は、原則として2時間連続で週2回(計4時間)の授業を行い、半期(前期または後期)で2単位を認定することを基本とする。4単位の科目については、前期・後期を合わせて4単位を認定する。
- ・ 学習指導要領に履修順序が定められているため1年次に設置できない科目(「数学」「英語」等)以外は、必履修科目も含めて1～4年次のどの年次でも選択可能とする。

イ 生徒の学びのニーズに対応した多様な教科・科目の設置

- ・ 普通科の教科・科目以外に、次のような多様な教科・科目の設置を検討する。

職業教育に関する専門科目

教科名	科目名
商業	「ビジネス基礎」「商品と流通」「商業技術」「経済活動と法」「簿記」「情報処理」等
家庭	「発達と保育」「フードデザイン」「被服製作」等
福祉	「社会福祉基礎」「基礎介護」等

基礎的・教養的な内容やコミュニケーション能力を高める内容等による学校設定教科・科目

教科名	科目名
国語	「国語基礎」等
地歴	「日本の文化」等
公民	「国際関係」等
数学	「日常数学」等
理科	「防災の科学」等
外国語	「基礎英語」「実用英会話」「ハングル入門」「中国語入門」等
芸術	「ペン字」等
人間の心理	「人間関係」等
国際文化	「異文化体験」等
体験	「体験活動」等
生活	「生活とコミュニケーション」「生活と環境」「生活とメディア」等

ウ 学校外の単位認定

- ・ 定通併修による科目
- ・ 近隣の高等学校との学校間連携による科目(工業・福祉等の職業に関する科目)
- ・ 高等学校卒業程度認定試験合格科目
- ・ 大学等との連携による科目
- ・ 技能審査(漢字能力検定、英語検定、ワープロ検定等)

(3) 入学者選抜

- 既設の多部制単位制高等学校と同様に、以下の方法で実施する。

区分	実施時期	募集割合	出願資格の区分	選抜の内容
期試験	3月中旬	1・2部 60% 3部 70%	中学校卒業見込む者及び 中学校既卒者	面接・作文
期試験 A	3月下旬	1・2部 20% 3部 10%	期試験に同じ	学力検査、面接
期試験 B	3月下旬	各部 15%	転・編入学希望者	募集要項で公表
期試験	9月下旬	各部 5%	中学校既卒者または転・編 入学希望者	募集要項で公表

(4) 川西教室及び宝塚教室

ア 両教室で学ぶ生徒の決定

- 本校か両教室かのいずれで学ぶかについては、入学願書を提出する際にあらかじめ受検生の希望を聞いておき、合格発表の際に、各入学生の事情等を踏まえて決定する。
- 入学時点では両教室で学び始めた生徒が、2年次以降本校で学ぶことも可能とする。ただし、年度の途中での変更は認めない。また、本校から両教室への変更も、原則として認めない。

イ 教育課程、学校行事等

- 単位制のシステムをとる。ただし、学期の区分は、川西高等学校及び同宝塚良元校と同じ3学期制とする。
- 教育課程は、川西教室は川西高等学校に、宝塚教室は川西高等学校宝塚良元校の教育課程に準じたものとする。ただし、本校の1部・2部の科目を履修することも可能とする。(原則10単位以下)
- 体育祭・文化祭等の学校行事については、川西教室は川西高等学校と、宝塚教室は川西高等学校宝塚良元校と合同で実施するが、本校の学校行事にも参加できるようにする。

(5) その他

以下の事項については、平成23年度以降に検討し、決定する。

- 各部の募集定員(平成23年度に公表)
- 高等特別支援学校との連携による、多部制単位制高等学校に在籍する発達障害等の生徒に対する専門的な支援体制の整備
- 平成24年4月に多部制単位制高等学校の敷地内に移転する伊丹市立高等学校との施設共用等に係る協議
- 川西高等学校で実施している網干高等学校通信制の協力校(スクーリング)の募集停止後の取り扱い

4 高等特別支援学校の教育課程等の特色

(1) 教育課程

ア 基本的な考え方

- ・ 知的障害のある生徒を対象に、企業就労を目指した職業教育を主とした教育課程を編成する。

イ 教科等を合わせた指導としての「職業生活」の実施

基礎分野

- 〔国語〕挨拶・返事・報告・連絡・相談の仕方、身だしなみの整え方、正しい敬語の使い方、面接練習、自己PR、各種申請書や履歴書の書き方、電話の応対、礼儀・マナー
- 〔社会〕家庭生活について、公共施設の利用について、消費者教育、地図の利用
- 〔数学〕日常的な数学、金銭の管理
- 〔道徳〕産業社会における自己の在り方について、将来の生き方

技能分野

- 〔理科〕機械の取扱い
- 〔家庭〕余暇の過ごし方、調理、裁縫、洗濯、掃除
- 〔職業〕将来の設計、ハローワークや就業・生活支援センターの役割と利用法、求人票の見方、雇用手続きについて
- 〔自立活動〕対人関係、自己コントロール、ソーシャルスキルトレーニング

情報分野

- 〔情報〕パソコン等情報機器の操作、情報教育

充実分野

- 〔音楽〕音楽の鑑賞・表現活動
- 〔美術〕美術の鑑賞・表現活動、ペン字
- 〔保健体育〕ジョギング、体力トレーニング、球技等の体育的内容
- 〔外国語〕基礎的な英語、実用的な英会話

ウ 職業に関する3つのコースの設置（職業に関する専門教科の設置）

流通・サービスコース（専門教科「流通・サービス」）

ビルメンテナンスや洗車、接客マナー等に関する学習、受託作業、事務、印刷、物流等オフィスサービス、企業内作業（清掃、物品のピッキング、洗車等）

食品加工・農園芸コース（専門教科「家政・農業」）

パン、クッキー、弁当など食品加工に関する学習、接客販売活動、企業内作業（野菜や鮮魚の加工・ラッピング等バックヤード）

福祉・介護コース（専門教科「福祉」）

介護実習を取り入れた福祉分野について学ぶ。福祉施設内実習

エ オンザジョブトレーニング（現場実習）

産業現場等における実習（企業実習、福祉サービス利用）

オ チャレンジタイム（総合的な学習の時間）

地域清掃、職場見学、就職セミナー、資格・検定取得、進学に向けたガイダンス、大学公開講座受講

(2) 入学者選考

実施時期(予定)	内 容
平成23年6月	学校説明会
平成23年7月	入学相談
平成24年2月	入学者選考

5 両校の交流及び共同学習

(1) 交流及び共同学習の意義

- ・ 併設のメリットを生かし、可能な限り2つの学校を1つの学校として運営する中で、ノーマライゼーションの進展のための礎となる学校をめざすという理念を生かす。
- ・ 交流という側面をこえ、どちらの学校の生徒にとっても教育効果のある「共に学ぶ教科・科目」を設定することで、豊かな人間性を育む。
- ・ 交流及び共同学習において、助け合ったり、時には人間関係のトラブル等を乗り越える経験を経て、両校の生徒がお互いを理解し信頼する。

(2) 交流及び共同学習の方法

ア 日常生活の中や学校行事等での交流

通学時や昼食時、休憩時間など日常的な生活における自然なふれ合いや交流

- ・ 高等特別支援学校の生徒は、多部制単位制高等学校の生徒と同様に、電車やバス・自転車・徒歩等で通学する。
- ・ 食堂や図書館・体育館・グラウンド・特別教室等の施設は、両校で共用する。
- ・ 特別支援学校の教室棟と特別教室棟とを結ぶ渡り廊下周辺に、両校の生徒の憩いの場や交流の場としての空間となるよう、ベンチやパーゴラのある交流広場を設置する。

学校行事や生徒会活動、特別活動での交流

- ・ 入学式、卒業式等両校がそれぞれ別々に実施する必要がある儀式的行事を除き、学校行事や生徒会活動、特別活動は両校が共同で実施する。

< 共同で実施する学校行事や生徒会活動、特別活動の例 >

始業式・終業式、体育祭、文化祭、遠足、球技大会、修学旅行、オープンハイスクール、部活動、地域貢献活動等

イ 共に学ぶ教科・科目の設定

次のタイプ1～タイプ4の方法により、「共に学ぶ教科・科目」を設置する。「共に学ぶ教科・科目」は両校の教育課程の中に位置づけることとし、多部制単位制高等学校では、1部・2部の教育課程の中に位置づける。

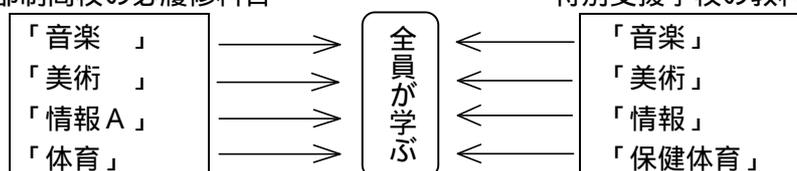
ただし、3部の生徒についても、1部・2部に設置する「共に学ぶ教科・科目」を選択して学ぶことを可能とする。

なお、多部制単位制高等学校については科目の履修及び単位の修得を、特別支援学校においては教科の履修を認定する。

タイプ1 高等学校の必履修科目のうち実技・実習を伴う科目について、両校の生徒が年間を通して共に学ぶ。

〔教科科目〕多部制高校の必履修科目

特別支援学校の教科



〔対象生徒〕両校の1年生（1年次生）

〔実施年度〕平成24年度（開校1年目）から実施

〔実施方法〕両校の授業担当者のチームティーチングで実施する。

両校の生徒の実態を踏まえて、各科目の中で実施可能な内容（単元・種目）について共に学ぶ。

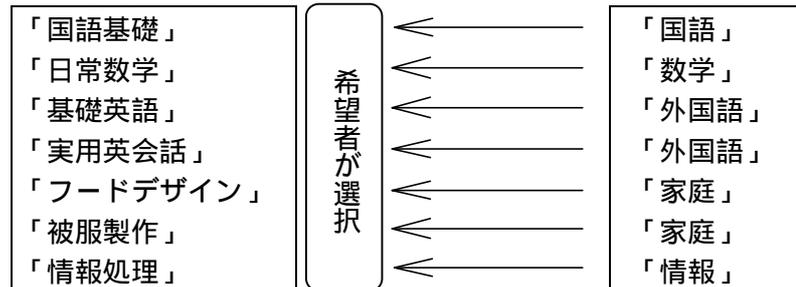
例）半期認定の2単位の科目（週4時間授業）の場合

1時間：共同での授業、3時間：それぞれの学校の生徒のみでの授業

タイプ2 多部制単位制高等学校の基礎的・教養的な内容や実技・実習を伴う内容の選択科目について、高等特別支援学校の希望する生徒が選択し、両校の選択した生徒が年間を通して共に学ぶ。

〔教科科目〕多部制高校の選択科目例

特別支援学校の教科



〔対象生徒〕両校の1年生（1年次生）以上

〔実施年度〕平成25年度（開校2年目）から実施

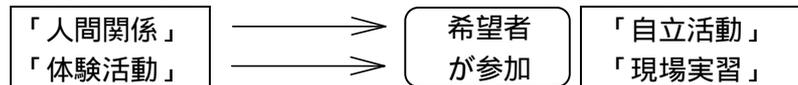
〔実施方法〕両校の授業担当者のチームティーチングで実施する。

各科目のすべて又は一部の授業を共に学ぶ。

タイプ3 高等特別支援学校の職業教育やソーシャルスキルトレーニング等の特色ある教育活動について、多部制単位制高等学校の希望する生徒が参加し、年間を通して共に学ぶ。

〔教科科目〕多部制高校の選択科目例

特別支援学校の教科・活動



〔対象生徒〕両校の2年生（2年次生）以上

〔実施年度〕平成26年度（開校3年目）から実施

〔実施方法〕両校の授業担当者のチームティーチングで実施する。

各教科のすべて又は一部の授業を共に学ぶ。

タイプ4 近隣の高等学校と連携し、近隣の高等学校の施設・設備を利用して両校の希望する生徒が学ぶ。

〔教科科目〕工業・福祉等の職業教育に関する科目

〔対象生徒〕両校の2年生（2年次生）以上

〔実施年度〕平成26年度（開校3年目）からの本格的な実施に向けて、平成24年度及び25年度は具体的な実施方法の検討や試行を行う。

〔実施方法〕近隣の高等学校の授業担当者と両校の授業担当者のチームティーチングで実施する。

〔課題〕近隣高等学校への生徒の移動方法、実習における安全面の確保、両校及び近隣高等学校の生徒への指導方法等

6 施設整備の内容

(1) 敷地面積 30,184 m²

(2) 構造規模・主な部屋

利 用	棟	規模/延床面積	主 な 部 屋	備 考
特別支援学校	校舎棟	3階建て/2,999m ²	普通教室18室、作業室3室、保健室、職員室、事務室等	新築
多部制単位制 高校	A棟	6階建て/5,262m ²	普通教室25室、会議室、事務室、校長室、保健室等	既設校舎 の耐震改修
	C棟	3階建て/1,238m ²	昇降口、職員室、ガイダンスルーム、情報実習室、講義室等	
共同利用	B棟	6階建て/5,375m ²	特別教室、大講義室、図書室、多目的室等	
	体育館	2階建て/2,520m ²	体育室、柔道場、剣道場、食堂等	
	プール	1階建て/88m ²	25mプール、更衣室	
	部室棟	2階建て/198m ²	部室20室	

7 開校までのスケジュール(予定)

平成 23 年 4 月 両校の開設準備室の設置

6 月 両校の校名(仮称)の公表

7 月 高等特別支援学校入学希望者に対する教育相談

10 月 多部制単位制高等学校の募集学級数の公表

12 月 設置及び管理運営に関する条例の改正

平成 24 年 1 月 両校の設置

両校の開校準備室の設置

2 月 高等特別支援学校の願書受付及び学力検査の実施

3 月 多部制単位制高等学校の願書受付及び学力検査(期試験、 期試験 A)の実施
特別支援教育棟の新築工事及び既設校舎の改修工事終了

4 月 両校の開校

平成 2 4 年度入学者選抜における複数志願選抜に係る第 1 志望加算点

平成 2 4 年度入学者選抜に複数志願選抜を実施する学区における第 1 志望加算点

平成 2 4 年度入学者選抜における神戸第三学区、尼崎学区、西宮学区、伊丹学区、明石学区、加印学区、北播学区、姫路・福崎学区での第 1 志望加算点は、平成 1 5 年度から平成 2 2 年度の結果をみると、第 1 志望加算点が有効に働いていることから、平成 2 3 年度と同じとする。

また、平成 2 4 年度入学者選抜における西播学区での第 1 志望加算点についても、平成 2 3 年度と同じとする。

尼崎学区、西宮学区、明石学区	第 1 志望加算点	1 5 点
宝塚学区、伊丹学区	第 1 志望加算点	2 0 点
神戸第三学区、加印学区、姫路・福崎学区	第 1 志望加算点	2 5 点
神戸第一・芦屋学区、神戸第二学区	第 1 志望加算点	3 0 点
北播学区、西播学区	第 1 志望加算点	3 5 点